



## フード・ツーリズムで地域活性化 ～学会での研究発表事例から～

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 丸山 香織 (徳島県派遣)

### Tomorrow's Food Travel 学会

2018年10月、スウェーデンのヨーテボリ大学で開催された Tomorrow's Food Travel 学会に参加してきたので報告します。当学会は、世界中のフード・ツーリズムの研究者などが、成果を発表し、意見交換をする場となっており、約60名が参加しました。

### Foodie ウォークツアー

学会での発表に先駆け、主に国外参加者に向けた市内ツアーが開催されました。普段は観光客に向けて実施されています。ガイドが市の歴史を解説するとともに、市場や飲食店を訪れ、地域の食を味わうことができる構成になっていました。



ウォークツアーの様子

### 研究発表

筆者が興味を引かれた発表をいくつか紹介します。

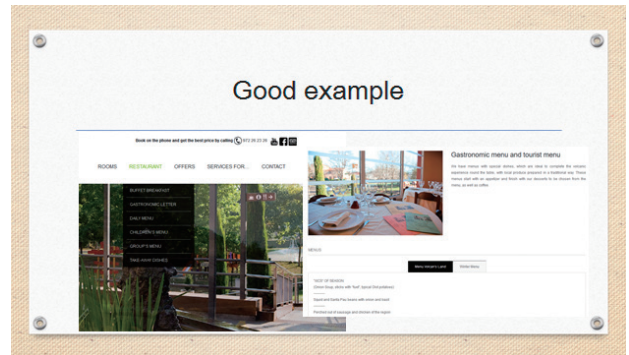
#### ○サイクリングツアーとガストロノミー (美食)

ドイツの研究者の発表によると、ドイツ南西部のフライブルクからフランス南西部のポルドーへ自転車で旅行した人にアンケート調査を行ったところ、85%が食の体験が重要だと回答したとのことです。特に夕食に関心が高く、楽しみを見出しているとの結果が得られました。

日本の自治体でも、自転車旅行者に向けたサイクリングマップを作成する動きが活発化しており、文化や食の体験を結びつける試みが行われています。旅行者がどの部分に重きを置いているのかを知ることは重要だと感じました。

#### ○宿泊施設のウェブサイト上の食に関する情報

続いて、スペインにおける研究を紹介します。ジローナ県の307の宿泊施設のウェブサイト进行分析したところ、61%が何らかの食に関する情報を掲載していましたが、メニューを載せていたのは24%のみであったとのことです。また、半数以上の施設が、食に関する写真の掲載は2枚以下との結果でした。良い例と悪い例も具体的に説明され、自治体としても宿泊施設と協力してフード・ツーリズムを推進していく際の参考になると思いました。



良いウェブサイトの例

#### ○誰が海藻を食べるのか

最後にオーストラリアにおける海藻の消費者に関する研究を簡単に紹介します。女性、高等教育を受けた人、収入の多い人、若い人ほど海藻を食べる傾向があるとのことです。このような研究を通して、誰に向けてプロモーションを行えば良いのかを事前に調査することは、自治体にとっても必要なことだと感じました。

今回の学会参加を通して、自治体が施策を立案する際には、対象とする人の属性と求めているものを分析することが非常に重要であり、そのためには大学の研究者などとの連携をより積極的に行っていく必要があると考えました。